

日本語教育タイムズ

学会や研究会、講演会やフォーラムなど、全国各地で行われている日本語教育関連のイベントについて、最新の情報をお伝えします。

研究会

第32回JSL漢字学習研究会開催 教育現場に直結する漢字学習の方法を共有

2月26日(土)、早稲田大学で、第32回JSL漢字学習研究会が開催された。今回は約35人(発表者含む)が参加した。

発表は4件あった。まず、ノビツカ アンナ(筑波大学大学院生)が、非漢字圏学習者の認知スタイルが漢字学習の成果に影響するかどうかを検討するために行った実験授業について、報告した。

次に、高橋麻衣耶(早稲田大学大学院生)が、JSL生徒(高校生)への日本語学習支援(1対1で1年半)の中で漢字指導を行った事例について、内容的動機付けという観点からの分析結果を報告した。

それから、有山優樹・落合知春・立原雅子(イーストウエスト日本語学校)が、漢字との接触場面や、その漢字の習得によって何ができるようになるのかを踏まえて作成した初級漢字334字の教材を紹介し、その教材を使用した指導によ

り、漢字だけでなく漢字学習ストラテジーを習得することも可能だ、という事例報告を行った。

最後に、中川健司・中村英三(常磐大学)が、介護福祉士国家試験の試験全体で使われている漢字と個別の科目で使われている漢字を、過去9回分のデータにより分析し、国家試験で用いられた漢字の頻度とその傾向について報告した。

どの発表も具体的で、教育現場に直結した示唆に富んだ発表であった。また参加者も自身の現場を思い浮かべながら熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われた。

本研究会は、日本語教育学会のテーマ研究会としても登録されており、年に4~5回開催されている。今回は、今年度最後の研究発表会であった。今後は、3月末に会誌第3号の刊行が予定されており、2011年6月11日(土)午後第33回JSL漢字学習研究会が開催される。詳細は <http://jssl-kanji.com/> を参照。

(JSL漢字学習研究会代表・

濱川祐紀代)

研究会

第14回日本語教育と音声研究会開催 音声で意図や感情を伝えるプロの声優が「伝える音声」を講演

2011年2月26日(土)、第14回日本語教育と音声研究会が、早稲田大学で開催された。本研究会は年2回、7年間にわたり一般公開を行ってきた。今回の開催趣旨は、音声コミュニケーションにおいて声で意図・感情を伝えるとはどのようなことかを考察し、日本語学習者に対する音声教育について考えることである。

研究会は第1部の基調講演および第2部の研究発表からなり、第1部「音声で気持ちを伝える一声優としての音声表現の工夫」では、声優界の第一線で活躍する若本規夫氏をお招きした。若本氏の出演作品は、アニメ「サザエさん」「名探偵コナン」「ドラゴンボールZ」、外国映画の日本語吹き替え版「プリズン・ブレイク」「バットマンビギンズ」「ナルニア国物語」、ナレーション(「嵐にしやがれ」他多数)

など数百に及ぶ。

会場には2時間前から参加者の方々が詰め掛け、総参加者数は207人に上った。日本語のアクセント・イントネーションなどの音声特徴について、楽しい実例を交えながら話が進み、「母音の性質に気を配ること」というような具体的な工夫も紹介された。また、原稿の棒読みがいかにも魅力に乏しいものかを実演され、音声として表出される部分はあくまで「氷山の一角」にすぎず、実は水面下に隠れている見えない部分が重要である、との指摘がなされた。単に表面的な声の使い方のテクニックではなく、音声表現において最も重要なのは、聞き手に伝えたい内容や気持ちである、というメッセージが心に響いた。まさに、日本語学習者に対する音声教育においても留意すべき点であるといえる。

質疑応答の時間も終始和やかな雰囲気、[サザエさん]を使った日本語学習をどう思うかなど、数多くの質問が寄せられた。若本氏によると、日本語がほとんどできない海外のファンも、声の表現力で感動するという。近年、国内外でアニメが日本語学習の動機になる場合もあることを考慮すると、若本氏の声は日本語教育にも少なからず貢献しているといえるであろう。

(早稲田大学・戸田貴子)

国際シンポジウム

日本語のレベルに応じたeラーニング「JPLANG」の活用について

海外への日本語教育支援方法を模索

3月2日(水)、東京外国語大学留学生日本語教育センターにおいて、「日本語のレベルに応じたeラーニングJPLANGの活用」に関する国際シンポジウムが開かれた。

JPLANG(ジェイピーラング)は、同大学において開発中の日本語学習用eラーニングシステムで、学習管理機能の他、初級から上級まで一貫した教材提供を目指し、現在、教室授業約600時間相当のコンテンツを無料で公開している(詳細は <http://jplang.tufs.ac.jp>)。

シンポジウムでは、開発責任者からJPLANGに用いた最新のWeb技術について説明があった後、タイ・タマサート大学と東京外国語大学をWeb会議システムで結んだ遠隔実験授業についての報告があった。これは、JPLANG上級コンテンツを利用し、お互いの言語を学んでいる学生が意見交換をしたものである。中級レベルでは、現在、教師向けに作成中の『中級日本語を教える一文型編』の紹介の後、教室授業とeラーニングの連動方法やプレゼンター

ションの復習ができる教材のデモンストレーションが行われた。

10言語による文法解説が公開されている初級レベルでは、セルビア語版の作成を担当したベオグラード大学で実施した、JPLANGを活用した日本語学習方法を学生に考えてもらう活動や、JPLANGとは異なる教科書を主教材としているナポリ東洋大学での授業とeラーニングの連動についての、報告が行われた。

JPLANGは、海外への日本語教育支援を謳っているが、シンポジウムでは、じかにその様子に触れることができた。

(東京外国語大学・藤村知子)

学会・研究会 カレンダー

2011.4/16(土)~7/2(土)
(全9回)

日本語教育 実践ワークショップ

主催●早稲田大学日本語教育研究センター

会場●早稲田大学(東京都新宿区)

URL●<http://www.waseda.jp/cjl/html/openlecture.html#jissen-workshop>

2011.5/21(土)~22(日)

2011年度 日本語教育学会春季大会

主催●(株)日本語教育学会・東京国際大学共催

会場●東京国際大学(埼玉県川越市)

URL●<http://www.nkg.or.jp>